Windows11 のコマンド活用

JJ1SXA/池

コマンド操作は、キーボード入力のみで指示を実行する仕組みだ、Windows の前の、MS-DOS の基本操作の手法だった、Windows でも便利に活用できる場面が多い。

コマンドを使うメリットは主に 3 つ、1 つ目は、通常の Windows の操作では行えない処理を実現できる、2 つ目は一括操作に長けている点、3 つ目は、メンテナンス機能の充実だ、そして、コマンド操作に必要なのは「コマンドプロンプト」だ、「PowerShell」（より高度な処理ができる）も搭載されているが、ここは、手軽に使える「コマンドプロンプト」だ。

コマンドプロンプトは、スタートメニューのアプリ一覧から起動できるが、「cmd」で検索するのが手っ取り早い、起動すると「C:\Users/△△△△>」と表示されるが（△△△△は自分の PC 固有のもの)、この後にコマンド入力、コマンドの []は半角スペース（\←バックスラッシュの入力には一工夫必要？)、コマンドプロンプトの終了は、コマンド入力が終わったら [Enter] キーを押し「exit」 と入力して [Enter] キーを押す、コマンドが実行中で入力を受け付けない時は、「Ctrl+C」キーを押して処理を中断して「exit」を入力する。

コマンドで実行できる便利機能の一部の紹介。

「時間指定シャットダウン」

動画を見ながら寝たい時、或いは外出のタイミングで更新が始まった時とか、パソコンを使い終わったらシャットダウンする人には重宝する機能だ。

C:\△△△△>shutdown[]/s[]/t[]3600

時間指定シャットダウンを取り止めたい時。

C:\Users/△△△△>shutdown[]/a

「アプリを最新版に一括更新」

インストールしたアプリや標準アプリの多くは、定期的に更新される、セキュリティー上の不具合を解消する更新も多いため、最新版が公開されたら速やかなアップデートが必要だ。

更新の有無を一つずつ確認するのは大変、コマンドを活用して確認からインストールまでを纏めて実行、更新の対象は、標準の「パッケージマネージャー」に登録されているアプリだ、コマンド実行で該当アプリが一覧表示されるが、それら全てアップデート可能だ、ライセンスの同意を求められたら「￥」キーを押す、後は全て完了まで待つだけ、「インストールが完了しました」と出れば更新成功、「…終了コードで失敗しました」という表示は何らかの理由で自動更新に失敗している、必要に応じて公式サイトからダウンロードして手動で更新。

C:\Users/△△△△>Winget[]upgrade[]—all

「突然サイトが開かなくなった時の操作」

突然ウエブサイトが開けなくなった場合でも、コマンド操作で復旧できる可能性がある、ルーター本体の故障や回線障害を疑う前に、コマンドによってネットワークの復旧を試す。

先ずは、現在の接続情報を開放し、IP アドレスの再取得だ。

C:\Users/△△△△>ipconfig[]/release（解放）

C:\Users/△△△△>ipconfig[]/renew（再取得）

IP アドレスの再取得でも状況が改善しない場合や特定のサイトのみが開けない状況の場合は、パソコン内に保存された DNS キャッシュを消去だ。

C:\Users/△△△△>ipconfig[]/flushdns

「エラーが頻発するなら修復コマンドを実行」

操作中にエラーが頻発したり、不安定な動作が続くなら、システムファイルの破損を疑うべきだ、そのまま使い続けると起動不能になるなど、より深刻な事態を招きかねない、気になり始めたら、手遅れになる前に修復だ。

コンポーネントストアをチェック

C:\Users/△△△△>dism[]/online[]/cleanup-image[]/checkhealth

コンポーネントストアに破損があった場合、Windows Update 経由で正常なファイルをダウンロードして修復する。

C:\Users/△△△△>dism[]/online[]/cleanup-image[]/restorehealth

Windows のシステム破損を修復する

C:\Users/△△△△>sfc[]/scannow

「バッテリーの劣化度をチェック」

バッテリーの劣化状況を正確に把握できるのが、このコマンドだ。

設計上の最大容量、現在の最大容量の他、最大容量の推移も表示される。

C:\Users/△△△△>Powercfg[]/batteryreport

常に満充電にしない設定で、バッテリーの劣化は抑えられる。

「WiFi ルーターの暗号キーを一発表示」

WiFi ルーターの暗号キーを忘れた場合、過去に同じ SSID へ接続したパソコンがあれば、保存された接続情報を参照してコマンドプロンプトに暗号キーを表示できる、設定画面からも確認は可能だが、階層が深いので、コマンドの方が早く表示できて便利。

C:\Users/△△△△>Netsh[]wlan[]profile[]name=SSID 名[]key=clear

まだ、色々あります、コマンドプロンプトは素晴らしい！！　（2026 年 11 月記）